

## 総括（日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科）

### I 教育研究活動の現況

本研究科の教育研究活動の現況としては、平成〇年に開設された学部卒業後に社会経験を3年以上有するものを対象とした2年制（定員25名）、および平成〇年より新たに開設された特に社会経験を課していない1年制（定員15名）の2つの異なる学生を受け入れている。教育の現況については、2年制については定員が確保されているが、1年制については定員の確保が難しい状況であるので、平成〇年〇月より募集を停止することとなった。社会人として3年以上の経験を有しており、講義内容も教材としてケーススタディの利用、あるいは最新のビジネスを取り入れた講義を実現するための外部講師によるプロポーザルクラスの実施は、ある程度の効果が認められる。

研究の現況については、2名ないし3名の専任教員が科研費あるいは他の研究資金を獲得するなど、外部研究資金の導入に積極的に対応している。本研究科付置機関としての「戦略的コンペティティブ・インテリジェンスセンター」を中心にビジネス社会との接点を持ちながら進めている「インテリジェンス」に係わる研究は、他研究科では見られないユニークな研究活動と言える。

#### 計画の達成状況

計画の達成状況としては、ファカルティーデベロップメントの一環として、慶応義塾大学ビジネススクール教授による講演会を開催し、ビジネススクールの財源、教員の質、業績評価などにつき意見交換がなされてきたが、十分とは言えない。

入学時のオリエンテーション、導入教育、補充教育に関しては、来年度より実施予定であるカリキュラムの中に新たに2科目「ビジネスエコノミクス基礎」「ビジネスエコノミクス応用」を設け事前知識が不足している入学制を対象に受講させることで達成出来るものとする。

組織的な研究体制の確立として、2006年度の科研費2件は本研究科教員が研究代表者として他研究科のメンバーも加えて獲得しているので、一定の改善がなされたものとする。

教員組織として、高齢者が多いとの指摘に関しては、本年度は4名の教員が退職することで、逐次、若手教員への切り替えを目指す。

## II 日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科の特色と課題

本研究科は、グローバル化、高度情報化、少子高齢化、さらに地球環境保全・再生化の問題が、わが国のビジネス社会に及ぼす影響について研究するとともに、次のような分野で、実践的な問題解決能力をもつ人材を育成することを目的としていることが特色である。

### 特色：

- ① 21世紀の社会経済、環境問題をグローバルな視野から理論的・実証的に分析解明でき、かつ国際ビジネス社会でリーダーとなれるビジネスマン。
- ② 独創的な新技術の創造、新規事業の再構築などが期待される起業家精神に富む創造型の起業家や、中小企業の管理者または経営者。
- ③ 社会変動予測、技術予測、ビジネス・イノベーション、技術の目利き、ビジネスプラン、ケース・スタディ、デュデュリジェンス、バリューエーション、ベンチャーに役立つ経済学など広く学び、新しいビジネスモデルを創造する起業家育成。
- ④ 少子高齢社会の進展に伴って発生する地域住民の福祉、医療・介護などに関与する組織体において、高度な専門知識と技術をもってマネジメントできるスペシャリスト。
- ⑤ 地球環境修復技術・新製品開発技術などを商業化できる戦略的経営能力を有するテクノロジー・マネジャー。

### 課題：

計画の達成状況としては、ファカルティーデベロップメントなど、教授法の統一性にかけるなど、尚一層の努力が求められる。また、本研究科開設依頼の課題である、社会人を対象とする教育の在り方など難しい課題が十分に解決されていない。反面、我が国の社会制度として、社会人教育修了者を向かい入れる側の企業にも大きな課題があると考えられ、大学だけで解決できる課題では無いことも理解されてきている。

本研究科の特色ではある5つのコース制に関しては、専門領域を「選択と集中」との考え方を元に見直す中で、コースの数を見直す作業が学務委員会そして全教員が集まる会議で検討が進められている。

## III その他

他の研究科では見られない教授法など：

### [1] 5コースで25名という少数精鋭教育

独自のコース制を採用し、「エグゼクティブ・マネジャー・コース」「中小企業経営コース」「ベンチャー・ビジネス・コース」「ヘルス&ソーシャル・ケア・コース」「テクノロジー・マネジメント・コース」の5コースがあります。各コースは、商経系から医療系、理工系まで多様なバックグラウンドをもつ学生を半期（4月・9月）ごとに受け入れ、5コースで合計25名による少数精鋭教育を行っていることが大きな特色の一つになっています。25名の学生に対し、専任教員18名のほか、約60名の非常勤（兼担・兼任）講師とグローバル・ビジネスに精通した客員教授による、マンツーマンに等しい教育環境を実現している。

### [2] 国際ビジネスの最前線を学ぶ「特別講義」

大きく変化する社会の中で、グローバル・ビジネスの最新動向をキャッチし、その理論や実務についてより実践的な教育を行うために、広く国内外から著名な学者、実務家を招聘し、「特別講義」を実施しています。各界をリードする第一人者の講義を通してカレントな情報やトレンドを取り入れ、学生に現実社会に直結した理論の構築と実践を促している。

### [3] 「昼夜開講」と「 Semester制」を採用

仕事をもつ社会人が学びやすいように、昼夜開講としました。昼間の講義は、企業からの派遣や留学生などフルタイム利用できる学生が、コンスタントに効率よく学ぶことができるよう土曜も開講します。一方、夜間の講義は、働きながら学ぶことに配慮し、18時30分と20時10分開始の2つの時間帯を設け、多様な科目選択も可能にしています。各人の主幹科目となる「特別研究」を除き、科目は全て半期完結型の Semester制を採用しています。前期・後期でそれぞれ完結するため、多様な専門科目、選択科目などを短期間に集中して学ぶことが可能である。